



2024年6月19日

各位

会社名 株式会社 plus zero
代表者名 代表取締役会長兼 CEO 小代義行
(コード番号: 5132 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 浅川耀佑
(TEL. 03-6407-0212)

2024年10月期第2四半期決算に関するQ&A及びオンライン説明会動画公開のお知らせ

2024年6月14日に公表した当社の2024年10月期第2四半期決算に関しまして、公表以降に株主様、投資家様などの方々から頂戴したお問合せ、ご質問等に関しまして、その内容と回答を下記のとおりお知らせいたします。

なお、本開示は、市場参加者の皆様のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものであります。決算内容の詳細につきましては、末尾<ご参考>に記載しております決算短信及び決算説明資料をご覧ください。

記

2024年10月期第2四半期決算説明会動画

発表者	視聴 URL
代表取締役会長兼 CEO 小代義行	https://youtu.be/4_P-eqETP6w

Q1. AEI の提携先との拡販はどの程度の実現性があるのかご教示いただきたいです。

決算説明資料の P9 に記載のとおり、AEI の重点対象については 3 つの分野があり、それぞれでご説明をさせていただければと思います。いずれも、拡販をしているフェーズにございます。

① コールセンター型 AEI

アップセル・テクノロジーズ様とナショナルクライアントクラスの顧客に対して実際に拡販を行っている状況となっております。

前回の説明会でもご説明しましたが、コールセンター大手の事業者様にもデモを見ていただき、パートナーシップを結びたいというお声を頂くことも多くなっております。コールセンター型 AEI に関しては、ナショナルクライアントクラスの顧客導入を皮切りに拡販していけるのではないかと考えております。

② AI と人間の協働プラットフォーム

丸紅グループ様はもちろんその他の会社様に対してもすでに導入を開始しております。0→1 の段階は完了し、拡販のフェーズになっている段階と認識しております。

③ 生成 AI を用いた設計効率化

アビスト様と連携をして他社様にも展開、それ以外の会社に関しても、提供を開始しております。

Q 2. エンジニアの採用が難しくなっていると思うが、事業への影響はないか？

影響はないと認識しております。採用手法は決算説明資料 P22 に記載しておりますが、①インターンからの採用②当社社員からの紹介に関しては無競争状態であり、この割合が少なくなっている状況にあります。③求人媒体経由での採用に関しては、当社が目材している AEI に共感いただける部分が多いと感じております。現状採用に関しては、課題感を持ちつつ対応しておりますが、不安要素はない状況です。

Q 3. ChatGPT のマイナス影響とプラス影響は何か

プラス影響しかないと認識しております。AEI 自体は二重仮定モデルと申し上げた通り、ルールベースと機械学習系と組み合わせることでより信頼性の高いものを提供する技術です。AEI から見た場合、技術自体はどの LLM を活用しても、一定の基準に達していれば特定 LLM に依存していない状況です。そういった流れの中で、LLM が市場で競争され洗練されていくのは、AEI にとってプラスの要素しかないと思慮しております。

AEI が対象としているのが、通常の生成 AI では対応が難しい IT の運用保守やコールセンターといった、信頼性が求められる部分でございます。そのため、AEI が生成 AI の直接的なライバルにはなっていない状況です。

Q 4. 生成 AI は、文章生成 AI が最も注目されており、御社でも生成 AI と AEI で文章生成 AI (チャット型サービス、ChatGPT) を展開されていると認識していますが、文章以外に画像 (映像、音声他) 等を AEI で生かす事は出来るのでしょうか？ (医療画像診断・手術等)

出来ると考えております。ただし、優先順位を高くしていくポイントではないと考えております。例えば、画像のみで学習したエンジンと、画像に映っている情報を言語レベルで深く理解したうえで複数の情報を統合して学習するエンジンであれば、後者の方がより画像認識の精度が高くできると思います。その点で、AEI と画像認識を組み合わせるときに、今まで以上に精度が上がるのは事実となります。ただし、信頼性という AEI の強みが圧倒的に生きる戦略ポイントではないと考えております。

Q 5. CEATEC のような展示会に出展するような計画はありますか？

直近では考えておりません。AEI に関しては、日本語からその他の言語にローカライズすることは容易に対応可能であります。昨今の状況を踏まえると外貨を獲得するかは重要な戦略であると認識しております。まずは国内での開発及び拡販、その先の戦略として、本格的に海外進出を行う場合は、英語できるメンバーも多いことから、直接的に進出していきたいと考えております。

Q 6. 本日アップされた、決算ダイジェスト動画 (IRTV) を拝見させていただきました。近いうちに大きい良い発表ができるのお話がありました。今年のお話でしょうか？ 来年のお話でしょうか？ 1年後の株価、5年後の株価についてどのような目標がありますか？

Q 2 で説明したとおり、いくつかのテーマがある中で、今年についても来年についても良い発表ができると考えております。具体的なタイミングについては、本日時点では報告は出来ない状況です。

Q 7. AEI は、第 4 世代 AI (二重過程モデル) とのことですが、この先、第 5 世代、第 6 世代と進化していくと思います。別の新しいものが出てくとも思いますが、第 5 世代は、こうなるんじゃないかな～？ こう進化していくだろうな～？ みたいな物は浮かんでいますか？

第 5 世代の定義は世の中にはない状況ではございます。そういった状況の中で、次の軸として考えているのが、如何にロボティクスのような身体性を持ったものと AI をつなげていくか、

デジタルだけで解決するのではなく、物理的な、世の中のリアルなものに対して AI が価値を出していくことが第 5 世代の軸になっていると考えております。

Q 8. 東大出身者比率が低くなっているように思われるのですが、それを売りにすることも厳しくなる状況なのでしょうか

東大生比率に関しては、目標等は掲げておらず、あくまで実績として報告しているものとなります。弊社としては、顧客に最大限の価値を提供していくことに対して、最適な人材を学歴等に関係なく採用し続けております。その結果として、他社様に比して特徴的な数字となっているので、ご報告をしている状況です。基本的には当社としてベストな人材を採用し続けていきたいと考えております。

Q 9. 医薬品関連では、HR の部分だけで、実際の業務で活かされる部分はありますか?

人材、バックオフィス等に関して AEI 導入は出来ると考えております。また、医薬品+医療といった形で検討をしたときに、規制が大きい業界だと考えております。規制との関連次第ではございますが、膨大なルールに基づいて信頼性をもってチェックをするのは AEI の得意とする部分であり、相性は非常に良いと考えております。

AEI に関して、適用領域は非常に広いものでございます。まずは、初期の産業適用のクオリティを高めていきたいという意図から、パートナーの数を絞って対応している状況でございます。医薬品や医療といった市場に関しては、リソースが潤沢になったタイミングでチャレンジしたい領域でございます。

Q10. 3/15 に三井物産ケミカルさんとの IR がありましたが、進捗率は何パーセント位ですか?

地域の DX 支援の方針でやっている事業でございます。当該事業に関しては、事業計画の中で数値目標を持っていない部分となりますため、進捗率等は特段ございません。鋭意進めている状況でございます。

Q11. Q10. Microsoft、Google 等、巨大プラットフォームから何らかの問い合わせ等あったりしたようなことはないですか?

現時点では、開示できる情報等はありません。

<ご参考>

- ・ 2024 年 10 月期第 2 四半期決算短信〔日本基準〕（非連結） 2024 年 6 月 14 日公表
- ・ 2024 年 10 月期第 2 四半期 決算説明資料 2024 年 6 月 14 日公表

以 上

免責事項

- ・ 本資料は、当社の企業説明、決算説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。
- ・ 本資料は、2024 年 6 月 14 日公表の 2024 年 10 月期第 2 四半期決算の内容に関して頂戴したご質問等などの内容に基づき、一部表現を修正して公表するものであります。
- ・ 本資料に記載される情報は、いわゆる見通し情報を含んでおり、当該情報は本資料公表時点における当社の見解であり、将来に関する記述につきましては、今後様々な要因により変動する可能性があることをご承知おきください。